

2024.08.17東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット
第1回実践交流会

クルド人青年への支援

 μ metanoia

NPO法人メタノイア

赤澤聡子

流れ

- 1 地域・教室
- 2 学習者の背景とAさん
3. 個別事例 Aさんに対する取り組み
 - 3-1 支援1 学習への取り組みを支援する
 - 3-2 支援2 将来をともに考える
 - 3-3 結果と気づき
 - 3-4 これから
4. 参考資料

流れ

- 1 地域・教室
- 2 学習者の背景とAさん
3. 個別事例 Aさんに対する取り組み
 - 3-1 支援1 学習への取り組みを支援する
 - 3-2 支援2 将来をともに考える
 - 3-3 結果と気づき
 - 3-4 これから
4. 参考資料

川口市について

- 全人口 607,279人のうち、44,441人が外国人
=外国人住民比率7.32%
(約13.7人に1人が外国人)

1位 中国 24,567人

2位 ベトナム 5,155人

3位 フィリピン 2,920人

4位 韓国 2,681人

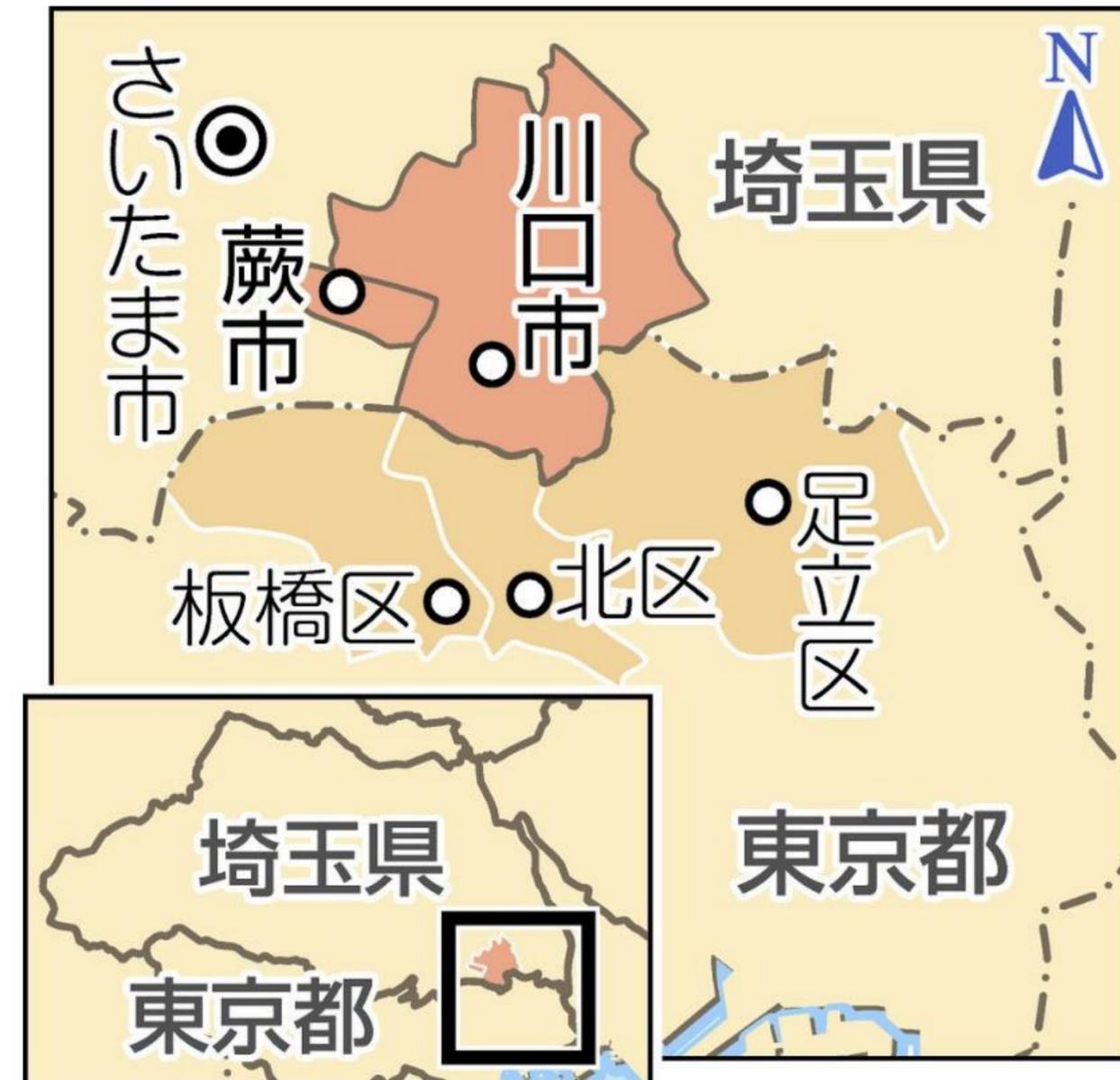
5位 ネパール 1,594人

6位 トルコ 1,504人 (トルコ国籍クルド人を含む)

その他 6,020人

+ 仮放免 (住民票なし) 700人程

令和6年4月1日現在
(川口市ホームページより)



画像：東京新聞WEB

クルド人

・クルディスタン地域

→ 自治運動や、クルド人のアイデンティティを守るための闘争に長期間さらされている。

- ・羊の飼育・農業が主な産業。半遊牧生活。
- ・親世代には小学校が最終学歴の方もいる。
- ・家族や部族の結束が強い。
- ・学校や社会生活はトルコ語を使用。



仮放免

- 日本での在留資格がない外国人が、様々な事情によって、入管収容施設に収容されずに、一時的に身柄の拘束を解かれること。
- 対象者は一時的に入管収容施設の外での生活を認められるが、多くの制限が課せられる。

①定期的な出頭義務

②就労禁止

③居住地からの移動の制限（修学旅行などに配慮が必要）

④住民票がないため各種行政サービスの対象外となる

＝国民健康保険に加入できない

＝高等学校等就学支援金や、奨学金給付が受けられない など

教室・地域について

川口芝クルド日本語教室

■ 開室日 月曜・土曜

■ 時間

月 16:00 ~20:00

(小学生は16:00から、中高生は18:00ぐらいから来る。)

土 13:00 ~18:00

■ 参加者 平均 6 - 10名

■ スタッフ・ボランティア 3 - 7名



流れ

- 1 地域・教室
- 2 学習者の背景とAさん
3. 事例 Aさんに対する取り組み
 - 3-1 支援1 学習への取り組みを支援する
 - 3-2 支援2 将来をともに考える
 - 3-3 結果と気づき
 - 3-4 これから
4. 参考資料

仮放免の外国ルーツの高校生が抱える問題

- ① 経済的困窮（生活費、医療費、学費など）
- ② 大学・専門学校に進学が難しい
在留資格がないため、断られたり受験・入学要件を満たせない場合がある
例) 入学提出書類に「住民票」が含まれる場合は入学できない
- ③ 入学後、裁判を経て在留資格を得なければならない

不安

- ・日本にいられるのか
- ・進学後、在留資格が得られるのか
- ・自分に在留資格が出ても、家族は日本にいられるのか

学習者 Aさんについて



- ・在留資格なし(仮放免)
- ・現在公立定時制高校 3年生
- ・家族は父母、双子の弟、妹2人
- ・小学4年生の頃に来日
- ・中学校卒業後、工業高校に進学
- ・進級できず転学
- ・趣味は体を鍛えること

Aさんの課題

- 1) 日本語力・・・ 日常会話は問題ないが、読めない書けない。
文字は視写はできるが意味がわからない。
自分の気持ちや意見などを文章で表すことが難しい。



- ① 漢字、語彙の不足
- ② 学習習慣が身につけていない

- 2) 将来の展望・・・ 将来について具体的に考えていない。
在留資格についての理解不足



- ① 情報不足、ロールモデルがない
- ② 親とのコミュニケーション不足、相談できる大人が少ない。

流れ

- 1 地域・教室
- 2 学習者の背景とAさん
3. 個別事例 Aさんに対する取り組み
 - 3-1 支援1 学習への取り組みを支援する
 - 3-2 支援2 将来をともに考える
 - 3-3 結果と気づき
 - 3-4 これから
4. 参考資料

支援Ⅰ 学習への取り組みを支援する

A 必要性

日本語を学ぶ必要性を理解する

B 習慣

学習習慣をつける

C 自律

自律的な学びにつなげる

支援1 学習への取り組みを支援する

会話では困らない。家族が病院に行くときなど通訳をする。
漢字はなんとなく読めて意味が分かる。

＝「日本語ができる」と思っている



A: 日本語を学ぶ必要性を理解する

- ➔ ① 日本語力の必要性を伝える
 - ・会話だけでなく読み書きが必要
 - ・社会言語能力（例：敬語、相手による話し方の調整、文化的な表現や言い回しの理解など）の大切さ
- ➔ ② 自分の日本語能力を知る
 - ・日本語能力試験（JLPT）の問題を解く

補足： JLPT（日本語能力試験）N2問題例

次の文の（ ）に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

最終のバスに間に合わなくて困っていた（ ）、運よく
タクシーが通りかかり、無事帰宅できた。

1 あげくに

2 ために

3 とたんに

4 ところに

支援Ⅰ 学習への取り組み

A: 日本語を学ぶ必要性を理解し、目標を持つ

① 目標の設定

- ・ JLPT受験を提案
- ・ 各レベル、文法・文字語彙・読解・聴解のテストを解き、点数を見て受験級を決める。(本人の希望と実際の力のすり合わせ)
- ・ 教材決定

② 計画を立てる

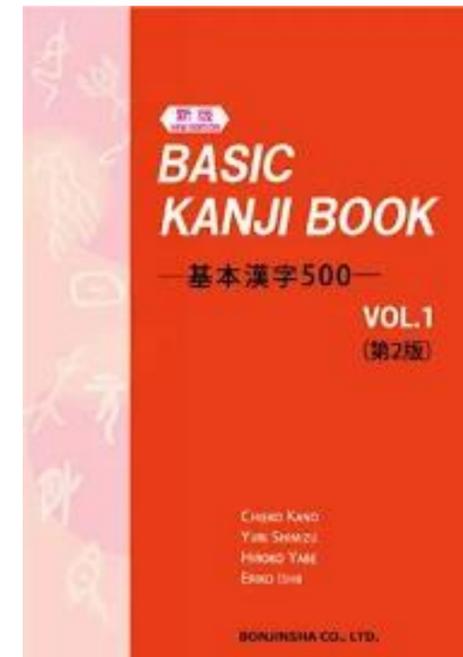
- ・ JLPT受験日までにテキストを終わらせる

③ スタッフの情報共有

- ・ 学習記録を残し共有する

使用教材

- ・トルコ語辞書 ポケット版
- ・JLPT ポイント&プラクティス シリーズ (スリーエーネットワーク) より
N3文法 / N3文字・語彙 / N4読解
- ・BASIC KANJI BOOK 基本漢字500 Vol.2
- ・日本語能力試験 第二集 公式問題集N3



支援 I

B: 学習習慣をつける

①時刻を知らせる

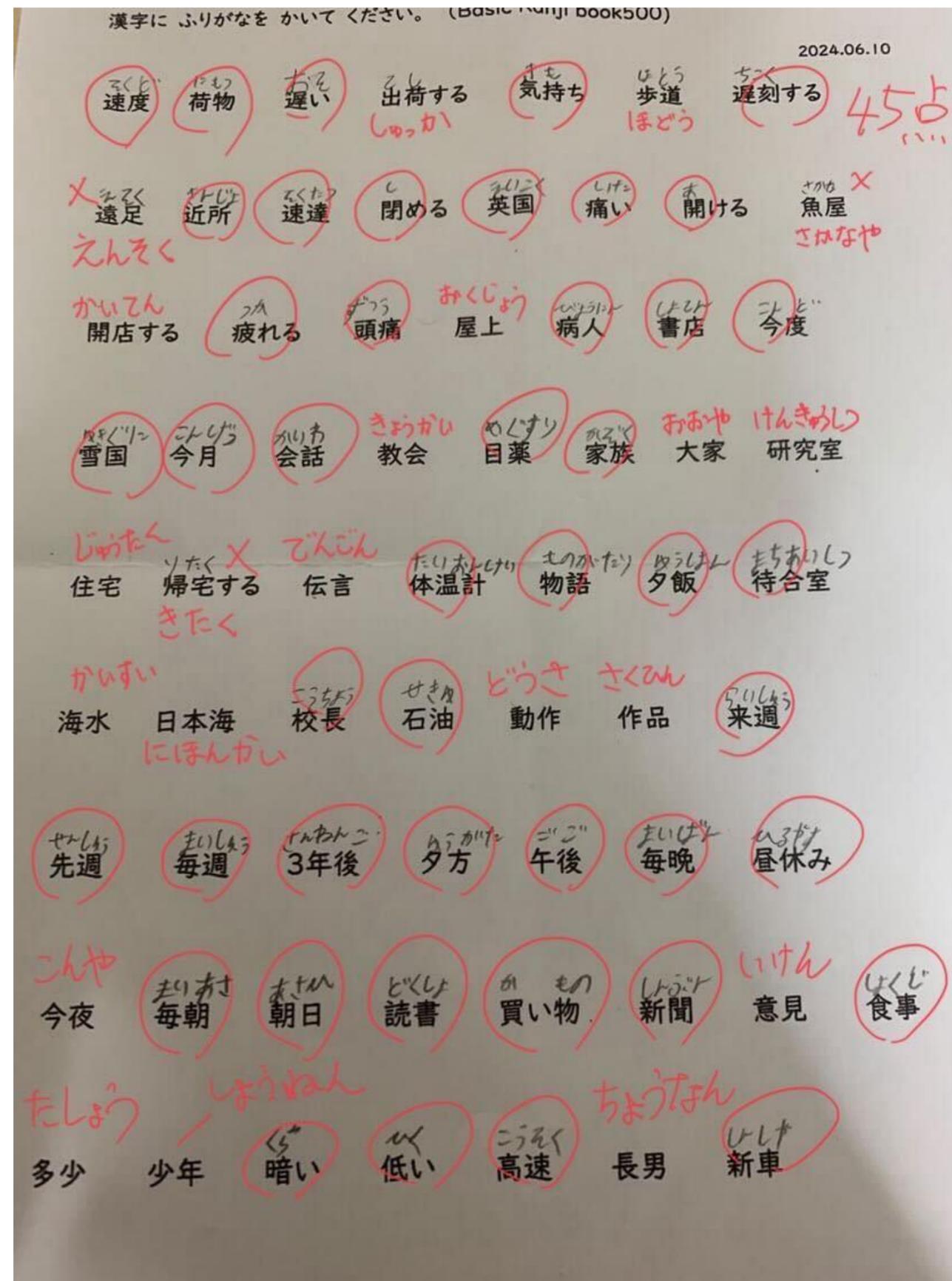
毎日同時刻にインスタグラムで連絡し、勉強を始める時間を知らせる

➡ 毎日勉強するようになった

②確認テスト

毎週 終わった範囲の漢字テストを作成、点数が悪い場合は次回も同じテストをする

➡ 間違いを見直す習慣



支援1

C: 自律的な学びにつなげる

① 語彙ノート作成

わからない漢字語彙が出てきたらメモをして、読み方、意味、使い方を調べる。

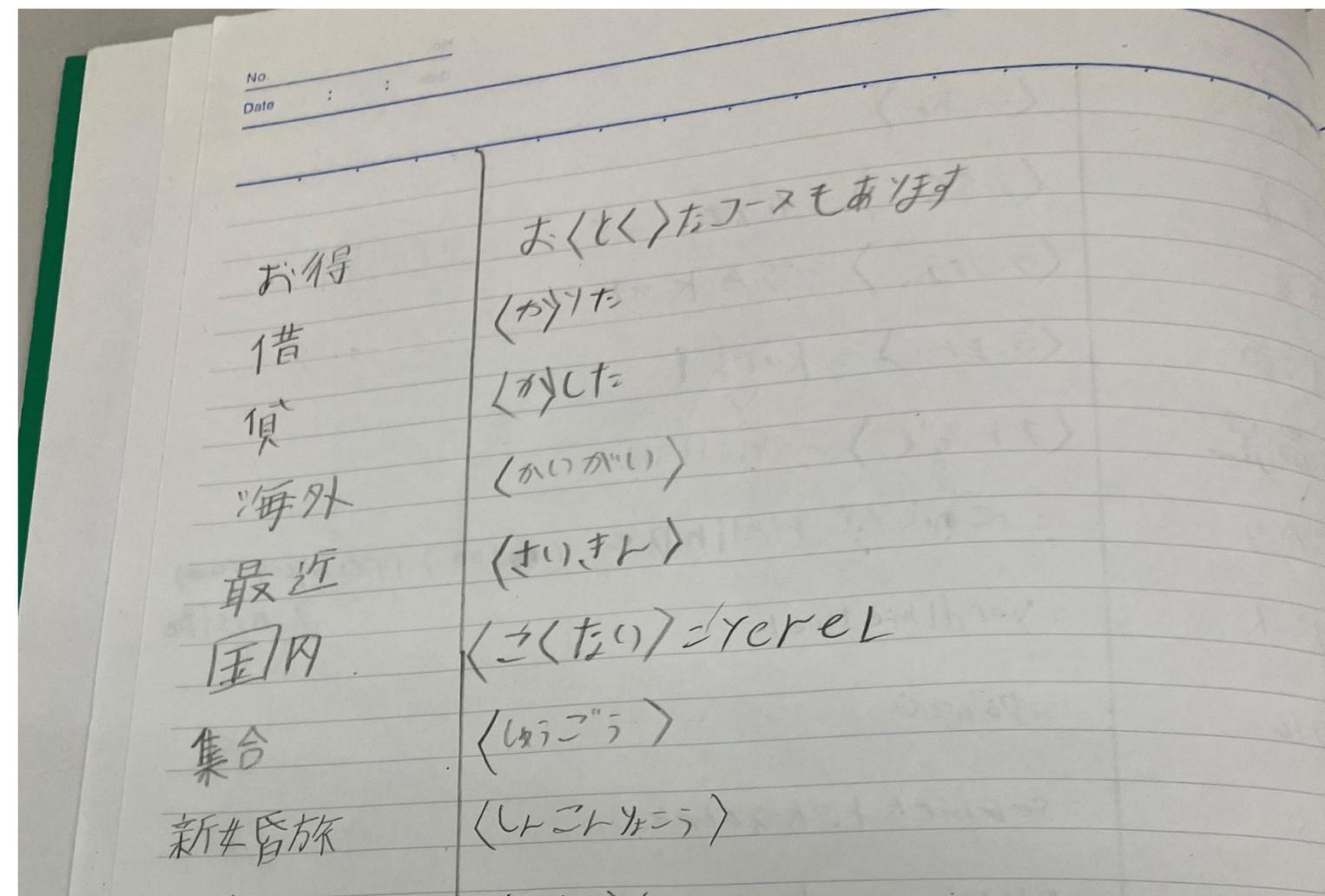
② 単語リストの事前配布

次回の範囲でわからないと思われる語彙、表現をプリントにし、調べておくよう宿題を出す。

➡ わからない言葉をメモする、調べる

③ 教室に来て、時間を計って模擬試験を解く

➡ 自分の問題を解くペースを知る



流れ

- 1 地域・教室
- 2 学習者の背景とAさん
3. 個別事例 Aさんに対する取り組み
 - 3-1 支援1 学習への取り組みを支援する
 - 3-2 支援2 将来をともに考える
 - 3-3 結果と気づき
 - 3-4 これから
4. 参考資料

支援2 将来をともに考える取り組み

A 目標

将来の目標を持つ

B 在留資格

自分の在留資格について理解し、将来を考える

C つながり

学校、親戚以外の人・場所とつながりをもつ

支援2 将来をともに考える取り組み

A: 将来の目標を持つ

- ・高校での校内ガイダンスを聞く
- ・専門学校の見学・体験会に参加する

- ・入学できないと聞いた
- ・在留資格が取れない学校もある

- ・〇〇学校は同じ境遇の人が卒業した
- ・在留資格が取れたと聞く

<Aさんの考え>

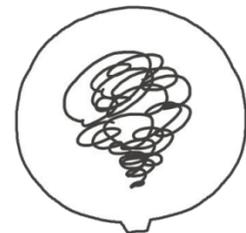
……俳優養成学校がいいかな



・・・入学できるのはどこ？
・・・在留資格が出る学校はどこ？
知り合いに聞いて回る



・・・自分も〇〇学校にする



それでよいのか？



支援2 将来をともに考える取り組み

B: 自分の在留資格について理解し、将来を考える

- ① 地域の支援者が開催する個別相談会に参加
高校生の在留資格と進路に詳しい行政書士に話を聞く。
- ② 日本語教室、地域の支援者と継続的に相談をする。
- ③ 在籍高校日本語支援員や担任と相談する。
(日本語教室と支援員の連携)

支援2 将来をともに考える取り組み

C: 学校、親戚以外の人・場所とつながりをもつ

仮放免高校生 給付型 奨学金プロジェクト —私たちはあなたを見捨てない—

仮放免の子どもたちは、親が働くことを禁止されているため、極度の貧困状況を生きています。義務教育期間中は、給食や体操着などに対して就学援助を受けられますが、高校からは就学支援金の対象にはなりません。そのために進学をあきらめたり、中退を余儀なくされる子どもが多くいます。さらに入管は、「日本にいてはいけないのだから、勉強してもしょうがない」と、やる気をくじいて追い返そうとします。しかし、出身国に帰れるならとくにそうしており、日本でしか生きられない高校生の将来を切り開くために何かできないか。このプロジェクトは、そうした思いから始まりました。自分は存在してはいけない、と日々思われるつらさを多くの人に理解してもらい、仮放免高校生とその家族の在留資格正規化につなげるキャンペーンの一環として、奨学金を出します。

仮放免高校生奨学金プロジェクトは、こうした高校生に、月1万円の奨学金を出すことで、かれらを市民社会は見捨てていないというメッセージを伝えます。月1万円は、公立高校の1か月の授業料であり、日本人なら免除になりますが、仮放免高校生は支払いを求められ、親も就労できない現状では重く肩のしかかっています。募集要項をご覧の上、該当する高校生がいらっしゃいましたら、ぜひとも応募を勧めてくださいようよろしくお願いいたします。

—募集期間—
2022年11月10日(木)~2023年1月6日(金)

応募方法は「裏面」をご覧ください
右のQRコードからWEBページにアクセスできます⇒

寄付先
ゆうちょ銀行
〇一九(セイイチキョウ)支店 当座
594755 シャ)ハンピンコンネットワーク
※依頼人名または備考欄に「ショウガクキン」と記入ください

—主催—
一般社団法人 反貧困ネットワーク
NPO法人 移住者と連帯する全国ネットワーク 貧困対策PT

- ①「仮放免高校生奨学金プロジェクト」に参加
・チューターの日本人大学院生とつながる

「仮放免高校生奨学金プロジェクト」

反貧困ネットワークと移住者と連帯する全国ネットワーク貧困対策PT

<https://migrants.jp/news/office/20221207.html>

- ② 豆の木プロジェクト

- ・バーベキューや進路相談会などイベントの開催
→ 日本人・同様の境遇の人とつながる機会を得る

→ 遠慮なく相談ができる日本人の存在・信頼感

流れ

- 1 地域・教室
- 2 学習者の背景とAさん
3. 個別事例 Aさんに対する取り組み
 - 3-1 支援1 学習への取り組みを支援する
 - 3-2 支援2 将来をともに考える
 - 3-3 結果と気づき
 - 3-4 これから
4. 参考資料

結果 Aさんが変化したこと

- 漢字、語彙が不足していると感じく
- 勉強の習慣化がおき、目標に向かって学習する態度が見られた
- 世代が近いスタッフに信頼感を持ち、よく話すようになった。

結果 Aさんが変わらないこと

- JLPTが終わってから学習が続かない。
- 進路選択は、在留資格のことのみを考えていて、先にどうつながるかを自分で考えることができない。

私の気づき ①

■ 文化的背景の影響・日本とは違う価値観

- コミュニティ内の大人は解体業・飲食店に関わっていることが多く、会社員として組織で働くことなどはイメージしにくい。
- 日本社会との接点が少ないコミュニティの中にいると、日本語を学ぶ必要性に気づきにくく、学ぶ意欲がわきにくい。(特に漢字・書き言葉など)
- 教育よりも家族全体の幸せが優先される場合もあり、日本のような長期的なキャリアを見据えた教育という概念がわからない。

■ 学び方がわからない

- 学習は学校だけであるものだという母国と、家庭学習を大切にする日本との違いに戸惑っている。

私の気づき ②

■ 関係性の大切さ

- 信頼を寄せたスタッフには何でも話すようになった。進路のこと以外、嫌だと思うことや自分の趣味のことをしている。他のスタッフにはあまり余分な話をしなかった。

■ 将来のキャリアを考えることが難しい

- 制限が多い中で暮らしているため、意欲がわかない。

■ 情報を得る手段が少ない

- 外国籍生徒に向けた進路選択の説明や、在留資格についての情報を得る機会が少ない

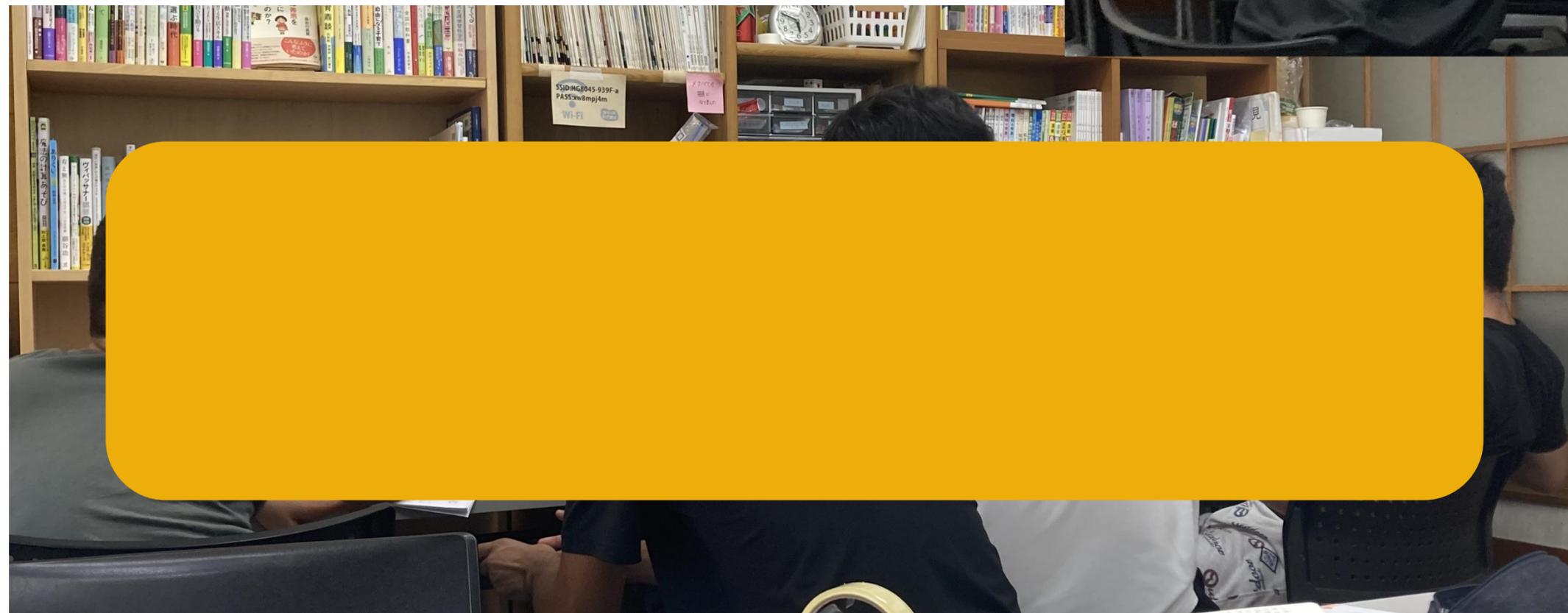
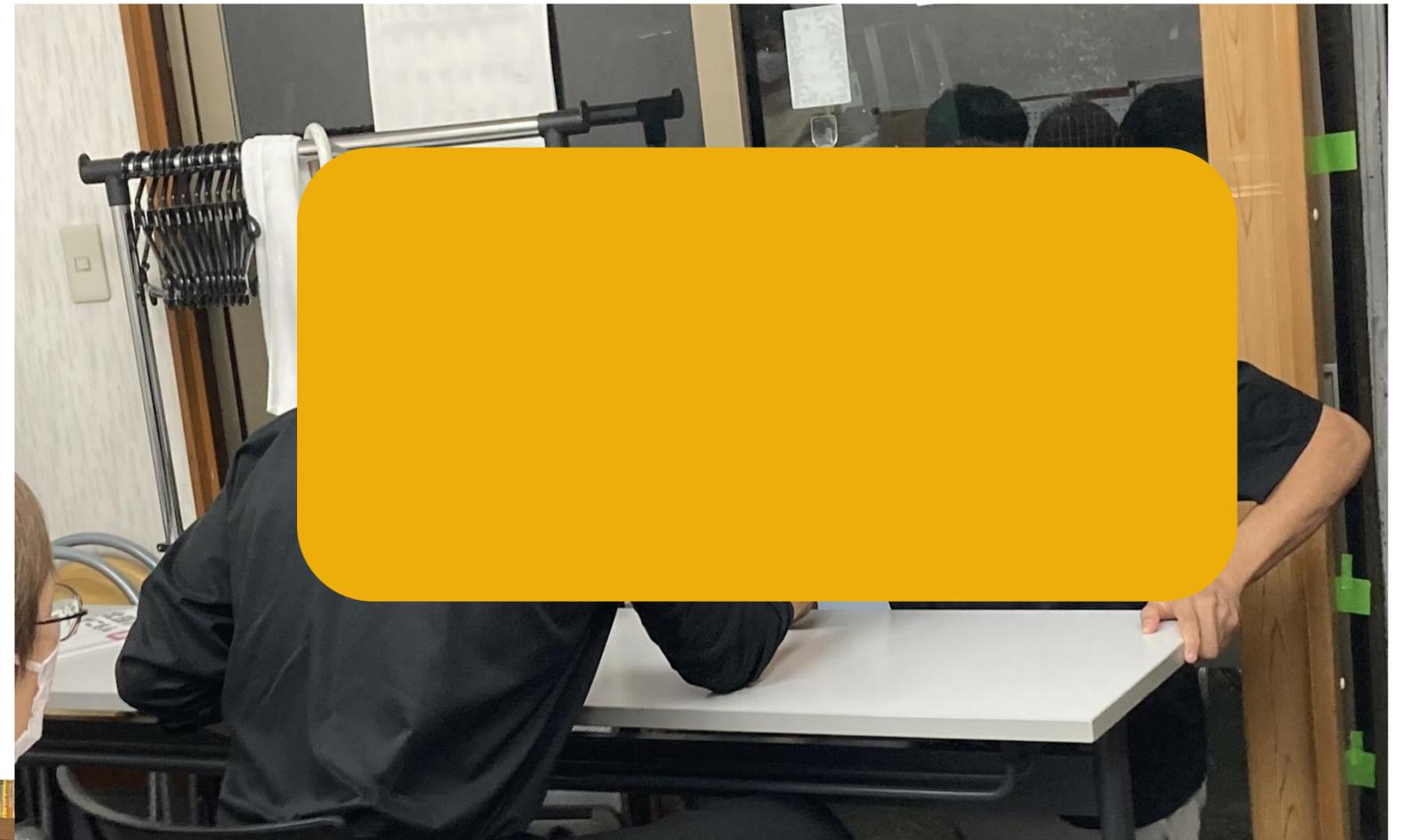
流れ

- 1 地域・教室
- 2 学習者の背景とAさん
3. 個別事例 Aさんに対する取り組み
 - 3-1 支援1 学習への取り組みを支援する
 - 3-2 支援2 将来をともに考える
 - 3-3 結果と気づき
 - 3-4 これから
4. 参考資料

これから（次への取り組み）

- 家や学校とは違う居場所、信頼できる身近な大人、小さい時から知っているご近所さんのような関係を築きたい。
在留資格などは、より詳しい支援者・専門家につなげる窓口になる。
- レクリエーションや創作活動、アートなど、自己表現ができる活動を用意したい。日常と少し違う活動や体験を、いろいろな人と一緒に楽しむことで、ストレス発散や自己肯定感の向上が図れるかもしれない。
- 文化的背景を理解し配慮しつつ、日本の考え方との溝をうめる小さなきっかけをつくっていきたい。地域の人とつながり、彼らの持つ文化も発信できる場所になればいいと思う。

ご清聴ありがとうございました。



(参考) スタッフ間の連携・生徒把握・学習記録

① Slackに記録

〈日付〉 7/29(月) 〈学習者〉 ○○○ (小1) 〈担当者〉

〈学習内容〉

〈所感〉

② 学習記録 A4用紙1枚記入 ・ スライドにアップロード

③ Googleスプレッドシートで人数の把握

④ スタッフミーティング